



小田良農園の野草花図鑑



カラスノエンドウ

マメ科ソラマメ属の一年生雑草で、赤紫色の綺麗な花を咲かせます。エンドウという名前がついているように、小さいキヌサヤのようなサヤがつき、熟すと真っ黒になります。



ブタナ

ヨーロッパ原産の帰化植物。フランスで「豚のサラダ」とよばれていたのが、日本はブタナ（豚菜）となりました。別名フタマタタンポポ。茎が長いこと以外はタンポポそっくり。

カタバミ

ハート型の葉を3枚つけ、黄色くかわいらしい花を咲かせます。生命力が強いため、旺盛な繁殖力が子孫繁栄の願いに結びつき、多くの武家が家紋として使用しました。



あざみ

ギザギザとしたトゲ状の縁の葉をつけ、堅い茎を持っているアザミは、紫色、ピンク、白の花を咲かせるキク科の植物です。花後は、タンポポのような綿毛を持った種をつけます。



ハルジオン

キク科の多年草。白やピンクの細かい花びらを持つ野草です。別名の「貧乏草」は、根っこさえ残っていればまた元気に生えてくるということからついたと言われています。



イヌノフグリ

ゴマノハグサ科の二年草。葉は卵円形。春、淡紅紫色の小花を咲かせます。果実は通常2つが合わさった形になっていて、和名「犬の陰囊」の由来になっています。

アカバナユウゲショウ

四つの花びらが、可憐で可愛い淡紅色の花。和名の由来は、午後遅くに開花して、艶っぽい花色を持つことからとされるが、実際には昼間でも開花した花を見られます。



ハハコグサ

全体が白い綿毛に包まれていて白っぽく見え、葉は細いへら形で、春から初夏に細かい黄色い花を密に咲かせます。春の七草の一つで、七草粥に入れて食べる野草として知られています。



オニタビラコ

春から秋に、放射線状に広げた細長く羽状に切れ込んだ長楕円形の葉の中心からまっすぐ伸びた花茎が枝分かかれして、5つに裂けた黄色い小花を次々と咲かせます。



セリバヒエンソウ

中国原産の越年草。園芸植物として栽培されていたものが逃げ出したもので、明るい林縁に多い。葉は細かく切れ込み、柔らかい。茎の先が花穂になり、淡紫色の花を数個つけます。